



NEWSLETTER

ドローンX ニュースレター

17 - JAN - 2023

Edition 0017

「教えて！」

ドローンの国家資格はどうなる？

国土交通省

ホームページに

「レベル4飛行の実現により、新たな未来が切り拓かれます。」

「より便利で快適な社会を実現するために、2022年12月5日から、無人航空機の新制度を開始。これにより機体認証、無人航空機操縦者技能証明、運航に係るルールが整備され、現行のレベル1〜3飛行に加え、有人地帯（第三者上空）での補助者なし目視外飛行を指すレベル4飛行が可能となります。無人航空機の活用範囲の拡大に伴う、各種制度の内容をご確認ください。」とあります。この各種制度とは何か？中身を掘り起こしてみよう。

ドローンの
国家資格制度とは

ドローン国家資格とは、

ドローン業界初の国が発行する資格です。イメージしやすいのは自動車免許です。自動車免許のドローンバージョンと考えれば1番イメージしやすいと思います。また国家資格は1つの資格ではなくて、1等ライセンス（1等無人航空機操縦士）と2等ライセンス（2等無人航空機操縦士）、この2つに分けられます。

1等ライセンスの 取得メリット

1等ライセンスができる事は、レベル4の飛行が可能になります。レベル4の飛行とは有人地帯の補助者なしで目視外飛行のことです。今までは有人地帯での目視外飛行は危険度が高いため、禁止されていました。国はドローン産業をより強化

していくために、このレベル4飛行を実現しました。1等ライセンスはレベル4飛行を行う人のための資格と思って問題ありません。一般の方が取得すると言うケースはかなり稀な事だと思います。

1等ライセンスの取得メリットは「レベル4飛行の為に必須」「信頼性の向上」「レベル4飛行を実現しようとしている会社に転職または就職する際の優遇資格になる」があげられます。

2等ライセンスの 取得メリット

2等ライセンスを取得することで、これまでは許可申請が必要だった「カテゴリーII B飛行」が許可申請無しで飛行することが出来ます。カテゴリーII Aは危険度が高い為、今まで通り申請や許可が必要です。飛行カテゴリー決定のフロー図と飛行のカテゴリーにつ

○飛行カテゴリー決定のフロー図



いては左記に表します。簡単に表現すると2等ライセンスによって、危険度の低い飛行についての申請・許可がいらなくなります。

裏面に続く➡

○飛行のカテゴリー

カテゴリーI飛行→特定飛行に該当しないため、飛行許可・承認申請は不要です。

カテゴリーII飛行→特定飛行のうち空港等周辺、150m 以上の上空、催し場所上空、危険物輸送及び物件投下に係る飛行並びに最大離陸重量 25kg 以上の無人航空機の飛行（カテゴリーII A 飛行）については、立入管理措置を講じた上で、無人航空機操縦士の技能証明や機体認証の有無を問わず、個別に許可・承認を受ける必要があります。また、特定飛行のうち上記の場合以外（DID 上空、夜間、目視外、人又は物件から 30m の距離を取らない飛行であって、飛行させる無人航空機の最大離陸重量が 25kg 未満の場合）については、立入管理措置を講じた上で、無人航空機操縦士の技能証明を受けた者が機体認証を受けた無人航空機を飛行させる場合、飛行マニュアルの作成等無人航空機の飛行の安全を確保するために必要な措置を講じることにより、許可・承認を不要とすることができます（カテゴリーII B 飛行）。この飛行マニュアルは、無人航空機を飛行させる者が安全の確保に必要な事項を盛り込み、その内容や形式は、飛行の実態に即して作成し、これを遵守する必要があります。これら以外の場合の飛行は、個別に許可・承認を受ける必要があります（カテゴリーII A 飛行）。

カテゴリーIII飛行→レベル4飛行（有人地帯における補助者なし目視外飛行）を含むカテゴリーIII飛行は、一等無人航空機操縦士の技能証明を受けた者が第一種機体認証を受けた無人航空機を飛行させる場合であって、飛行の形態に応じたリスク評価結果に基づく飛行マニュアルの作成を含め、運航の管理が適切に行われていることを確認して許可・承認を受けた場合に限りです。

ライセンスと 機体認証制度について

1等や2等のライセンスを取得して、カテゴリにに応じて申請・承認を得ればドローンを飛ばしても良いという訳ではありません。ここに機体認証制度というものが絡みま

す。①型式認証が登録されているドローンを、②機体認証を行って、③機体登録されたドローンを飛行する際に、初めてライセンスの意味が発生します。つまり、国土交通省が承認した機体で飛行する際にライセンスが有効に役割を果たします。

2023年1月15日現在、日本にて①型式認証が登録されている機体はありません。今後、様々な企業が登録していくと思いますが、その機体を使って、自分の飛行がどのカテゴリかを考え、1等、2等ライセンスの必要性を検討する必要があります。ということなのです。

民間の資格は 意味がない？

JUIDAのような民間資格と、今回のドローンの国家資格は別の資格です。民間資格がそのまま国家資格の予備資格になるということではなく、別物になります。ただ全く無関係と言うわけではありません。現在もDIPで行っている申請や承認はこれからの必要であり、民間資格を持っている人も、スクールに通わず独学でドローンを学んだ人も、申請は必要で、これを行わず、飛行をしている人は論外であると言えます。JUIDAの資格はこれまでとおなじく申請が簡略化されスムーズです。

JUIDAは国家資格化 を見据えたライセンス

JUIDAが発行するライセンスは、国家資格ライセンス取得時の優遇対象の技能認証となっ

初学者・経験者の国家ライセンス講習受講時間

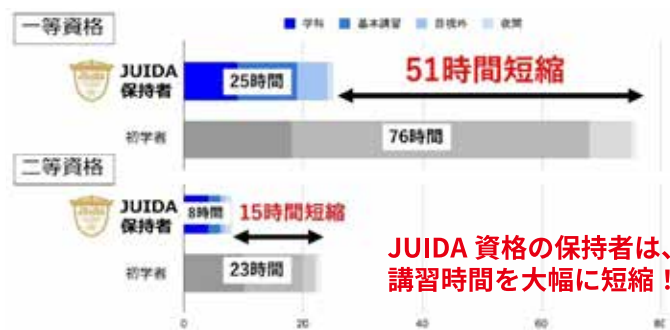
	初学者		※経験者	
	座学	実技	座学	実技
二等資格基本	10時間以上	10時間以上	4時間以上	2時間以上
二等資格目視外	×	2時間以上	×	1時間以上
二等資格夜間	×	1時間以上	×	1時間以上
一等資格基本	18時間以上	60時間以上	9時間以上	10時間以上
一等資格目視外	×	7時間以上	×	5時間以上
一等資格夜間	×	1時間以上	×	1時間以上

※経験者：JUIDA受講済み等

経験者は左記追加講習を受講しないと、国家ライセンスでの実技免除は受けられない

います。国家資格のライセンスを取得する際に、「初学者」と「経験者」という区分けにより、座学と実技の必要受講時間が異なります。※実技時間とは「ドローンの飛行経験時間では無く、指定機関による講習受講時間です。」左記の図のように1等と2等ではその必要時間が変わっています。また、JUIDA資格保持者と初学者とでは1等で51時間、2等で15時間の短縮ができることが現状報告されています。つまりJUIDA資格保持者については国家資格ライセンスを受け

る際に、経験者としての追加講習を受けることで実地試験が免除されることになっていきます。



JUIDA 資格の保持者は、講習時間を大幅に短縮！

その後全国のコンピュータを活用するCBT (Computer Based Testing) 方式の試験会場 (県内では3会場【下関市・山口市・防府市】で学科試験を受ける必要があります。1等で75分程度、2等で30分程度の試験があります。ドローンに関する法律や機体

模擬ライセンス制度 学科試験(1等)サンプル問題

学科試験(1等) サンプル問題

飛行機が、飛行速度25m/s、バンク角30°で定常旋回した時の旋回半径として、正しいものを2つ選びなさい。

ただし、重力加速度は9.8m/s²、tan30°=0.58とせよ。電磁気の使用可能である。

a. 105m
b. 110m
c. 115m

(正答) b

(参考) 「無人航空機の飛行の安全に関する規則 第2条」4.3.5 (2)

(注) CBT方式試験の画面上に表示される電磁気機を使用することが可能 (電磁気の使用は不可)

模擬ライセンス制度 学科試験(2等) サンプル問題

無人航空機操縦者技能認定証及び機体認証を受けていない場合であっても、もともとに基づき、飛行の許可又は承認が不要な飛行として、正しいものを1つ選びなさい。

a. 白昼間の飛行
b. イベント上空での飛行
c. 人口密集地域に該当しない地域での高度150m未満の飛行

(正答) c

ついでに知識のほか、運航上のリスク評価の考え方などに関し、3つの選択肢から答える問題が出され、合格には9割程度の正答率が求められます。一部学科試験の内容がありますので掲載します。また、自動車という一発試験のような、試験会場もあるが、一発試験では合否が厳しくなります。1等の試験などは、GPS補助の無い(ATI)モードを意のままに操る技術が必要です。風のある中で、この飛行の難しさを当校の受講

1等・2等ライセンスの学科試験のサンプル↑

国家資格は就職や転職で有利になること、また企業で顧客に安心・信頼の証として強大なイメージが発揮できます。ドローン業界は2025年市場規模6500億円と言われている成長産業です。変わり行く制度と、ドローンの最新技術を常に学び、安全に飛行したい。

生ならば分かるはず。初学者と経験者で異なる講習が用意される現在、ドローンXも実地試験が免除される登録講習機関として認定を受けます。今後、初学者向けの講習や経験者向けの追加講習のカリキュラムと時間、受講金額などが決まっています。順調にいつて今年の3月から4月になるのではと予測しています。

変わりゆく制度と
最新技術に注目が必要